

# 『ボタンアート ～山王小学校～』

塩釜三小での  
実践を参考に

令和6年  
9月5日～27日

## ○単元における願い

- ・一人一人が分担の仕事や準備・片付けの活動に  
精一杯取り組み、みんなで力を合わせて制作し、ボタ  
ンアートを完成させてほしい。
- ・ボタンアートや完成した作品展示等を通して、達成感  
や自己有用感を高めてほしい。

本単元は、あおぞら学級児童全員が力を合わせ  
て、洋服の端布(はぎれ)からボタンを取り外し、色  
毎に選別し、その様々な色のボタンで絵を描くボタ  
ンアートで、山王小学校をイメージした畳1畳ほど  
の作品を作り、学習発表会で展示しようというもの。

## 完成写真『ボタンアート～山王小学校～』



# 実践の概要①

月/日	曜	小単元	主な活動内容
9/ 5	木	ボタンアートに挑戦	ボタンアートを知り、どのような『山王小学校』に表現したいかアイデアを出す。
9/ 6	金	ボタン外しをしよう	洋服の端布からボタンを取る。
9/ 9	月	ボタンを選別しよう	色や大きさごとにボタンを選別する。
9/11	水	下絵を描こう	板に下絵を描き、色を塗る。
9/12	木		
①あおきらパークを作ろう			
9/17	火	ボタンを貼ろう	下絵に合わせ、同じ色のボタンを貼る。
9/18	水		
9/19	木		
9/20	金		
9/24	火		
9/25	水		
9/26	木		
9/27	金	作品の前で記念写真を撮ろう	完成を祝って記念撮影をする。



『ボタンアート』で作品を谷藤先生の願い

支え

塩三小のノウハウ+ウエス会社の協力

## ①ボタンアートに挑戦しよう

- ・ボタンアートって何? ⇒ 見本提示
- ・作品のテーマは?  
⇒ やっぱり『山王小』でしょ  
どんなデザインにする?  
⇒ 各自が『山王小』のイメージを出して、それを組合せ



## ④下絵を描こう

### 【デザイン決定】

- ・山王小マスコットキャラクター  
『すずめ王』を中心、自然  
豊かな四季を表現しよう
- ・『すずめ王』は半立体的に
- ・担当する色を分担し、ボタン  
貼りつける板に全員で色塗り



# 実践の概要②

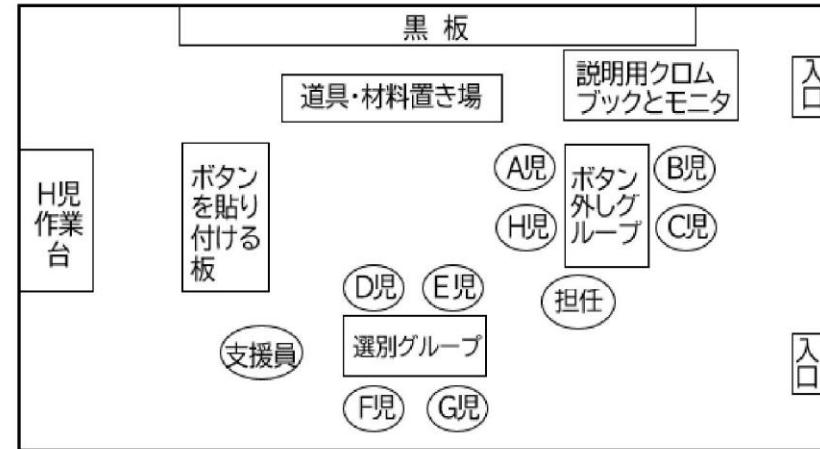
単元後半は【ボタン外し・選別】+【ボタン貼り】

## 【今日の作業の確認と材料と道具の準備】

- ・実物とテレビモニタを見て、本時の流れを確認する。
- ・自分で道具と材料を用意する。

## ○場の設定

\* 1組だけ  
で活動する  
場合



## ②ボタン外しをしよう

- ・端布についていたボタンをはさみで切り取る。
- ・切り取ったボタンを、ボタン入れの容器に入れる。・ボタンを取り終えた端布は、ゴミ入れ袋に捨てる。

当初は担任が分量を決め端布をカゴに入れて渡したが、慣れてくると自分で頑張りたい量を決めて取り組んだ。友達がたくさんボタンを取る様子を見て、「負けたくない」と、手先があまり器用ではない児童がやる気を高め、苦手なはさみの使い方を自立活動でも練習し、日増しに量が増えた。



## ③ボタンを分別しよう

- ・ボタンを入れる色別容器に、選別しながら入れる。・糸がついたボタンは、糸をリッパーで切り取る。

色見本の付いた仕分け容器を用意したこと、色の間違いは皆無。しかし、単調な作業に手が止まることも。「なくなったら終わり」と最後の見通しが持てたこと、ボタン貼りが始まり、色毎に分けることの意味を感じて意欲が向上、一定の時間集中して取り組むことができた。



# 実践の概要③

## ⑤ボタンを貼ろう

- 自分の分担色のボタン入れとボンドを用意する。
- ボタンの裏にボンドを付け、板の下絵に貼る

ボタン貼りは、大きな下絵の書かれた板を囲んで、全員で行った。取り組みやすい色やボタンを貼る場所を割り当て、順番を分かりやすく説明したこと、自分たちでデザインを決めたことで、当初から児童の意欲は高かった。担任や支援員も児童の近くで作業をしながら、賞賛や助言をした。

終盤、進み具合に差が出ると、自分から友達を手伝う姿や済んでいないところを「やりますか？」と言う児童が見られ、それぞれ児童の良さを生かしながら学級のみんなで1つの作品を仕上げ、担任が求めていた理想の姿となった。



完成 作品は学習発表会の会場に展示(現在は、校長室の廊下の掲示板に)

# 子どもたちの姿

## 見通しを持てたことで友達と一緒に同じ活動できた吉本さん(6年)

吉本さんは6年生。初めての作業や新しいことに取り組むことが苦手で、失敗することを恐れ、不安感を激しい癪癩や乱暴な行為で表してしまい、5年間、集団で友達と一緒に活動する姿は皆無だった。そこで、担任が横で一緒にを行いながら少ない量からボタン取りを始め。かごに入っている分は必ず終わらせることができた。ボタンの量で自分が頑張ったことが分かり、「今日で100個だよ。」など達成感を得られる発言が増え、外したボタンの総数を口にしながら意欲的に取り組んだ。後半のボタンの貼り付けは、友達に先駆けて一人で担当する部分にボタンを貼るの吉本さんであったが、後半に入ったある日、吉本さんは友達がボタンを貼りに移動してきても、その場を離れずボタン貼りを続けた。活動に見通しを持ち安心でき、柔らかな笑顔で友達と一緒に同じ活動することができた初めての日になった。



## ボタン取りチームでリーダー的な役割を果たした長嶋さん(3年)

夏休み前まで活動への不安から切り替えができず、放課後に学校隣接の児童クラブにも担任の付き添いを求める長嶋さん。元々器用で理解力も高く、ボタン取りの手順を覚えると、次から次へとボタンのついた端切れに手を伸ばし、ハサミを使ってボタンを外した。全部のボタンを取り終えると、端切れの端から端まで2本の指でなぞり取り残しがないことを確認。これには大人も脱帽。友達に積極的に声を掛けて引っ張っていくわけではないが、ボタン取りに取り組む姿勢がチームのやる気につながっていった。長嶋さんの本来持っている力が充分に發揮され、その後の生活に変化をもたらした单元であった。



# 『ボタンアート～山王小学校～』のまとめ

## ○保護者から

- ・「毎日、「今日はボタン〇個になったよ。」と報告してくれます。楽しみにしているよう朝の準備も早いです。これまで図画工作のような制作は苦手としていたので、こんなに一生懸命取り組んでいることに驚きます。」
- ・「こんなに作品が大きいと思いませんでした。子供たちの頑張りが伝わってきます。」

## 【成果と課題】

- 初めてのボタンアート。塩三小のノウハウとウエス会社の協力 ⇒ 充実した活動に
- 同じ活動の繰り返しで見通しが持ちやすい ⇒ 集中して取り組む姿、意欲の向上
- たくさんの友達や先生からの「すごいね。」「頑張っているね。」 ⇒ 自信や達成感に▲実施時期 ⇒ 地区作品展に合わせて ▲実践の継続 ⇒ デザイン、掲示場所etc.

11月21日ウ  
エス会社社  
長さんをお招  
きして感謝の  
会を開催



## ボタンアート「山王小学校」ができるまで

あおぞら学級では、子供たち一人一人が自分の仕事に責任をもって取り組んでほしいということ、あおぞら学級全員で協力して一つの作品を仕上げる喜びを感じてほしいということを願って、9月、10月の生活単元学習でボタンアートに取り組みました。ボタンアートの題材は「山王小学校」。山王小学校の四季折々の風景をイメージし、山王小学校のマスクットキャラクターである「すずめキング」を描いた作品を仕上げました。

今回使用したボタンはウエス加工会社『ハシモト』様から無償で提供していただきました。

### ①下絵描き

発泡スチロールで描いた「すずめキング」や、ペニヤ板に描かれた絵に、ペンキで色を塗り、下絵を描きます。



### ②ボタンはさみ分別

布きれから、はさみやリッパーを使ってボタンを外し、黒・白・青・赤・茶色など、色ごとに分別します。



### ③ボタン貼り

下絵の描かれたペニヤ板と発泡スチロールで描いた「すずめキング」に、下絵と同じ色のボタンを、木工用ボンドで貼っていきます。



### ボタンアート 「山王小学校」完成！



山王小学校あおぞら 2組